

自己評価結果公開

小百合保育園

1. 本園の保育目標

乳幼児の発達を正しくとらえ、個人差や環境に十分気を配り、集団生活を通じてすべての面の発達を促進させるような生活・活動を豊かに展開し、子どもたちが自分を大切に、他人を大切に、互いに協力し合って、よりよい生き方が出来るよう、その基礎を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、自己点検・自己評価することにより、職員の共通理解をはかり、職員自身の振り返りと自園を客観的に見直す目を養い、職員の資質の向上、保育の向上を目標に主体的に取り組んでいくことを重点目標とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

①保育の計画性 B

例年、園の保育理念・保育方針と保育所保育指針の理解についてはB評価が多いので、この一年間理解できるよう取り組んできたがなかなか全体に浸透しないようだ。更なる取り組みが必要である。

②保育の在り方・幼児への対応 A

各クラスともその年齢の発達や育ちを理解しながら、保育者との信頼関係を保ち保育することを心がけてきた。保育士と調理師との連携については、ミーティングによって深めることができた。今後も各部門のミーティングの開催を活発にして、連携を深めていきたい。

③専門家としての資質 A

割り当てられた研修や自ら希望した研修に参加し、保育士としての資質を高めてきた。しかし、園児の特性を捉え筋道を立てながらの保育という面ではまだまだできていないようだ。保育士一人ひとりが

④保護者への対応 A

朝と帰りの玄関引き取りは不満を示す保護者が少なくなった。園児一人ひとりに丁寧な保育を行い、保護者に対して誠実に対応してきた結果ではないかと思う。高評価を得ているクラス懇談会は個人面談と毎年交互に行っていく。

⑤地域との関わり B

今年度も区内によく散歩に行ったり小学校に遊びに行ったり、地域住民との交流を深めてきた。今後、干布地区の地域カフェ等にお邪魔して交流したい。

4. 今後取り組むべき課題

*特別支援教育

今年度も「診断されている子ども」「クラスの中で支援を必要とする子ども」などの特性を園全体で話し合い共通理解を図ってきた。担当職員や主任は医療・福祉の関係機関との連携を持ち、指導を仰いだり、情報交換を行っている。特別支援のみならず、各部門について広い範囲で共通理解できるように研修を充実させたい。

*保護者との連携

要保護家庭が今後も増えていくのではないかと思う。それぞれの家庭に合わせた支援が必要になってくる。

*地域との関わり

公民館行事などへの参加要請はなかった。地域との関わりを持つ必要があるので、参加要請があれば積極的に参加していきたい。また、今後とも小学校との連絡会等で話題になったことは、全職員へ報告する機会を設ける。